

ブナ科 コナラ属

クヌギ (栲)

Quercus acutissima Carruth.

自生環境

山林、林縁 など

原産地

日本在来

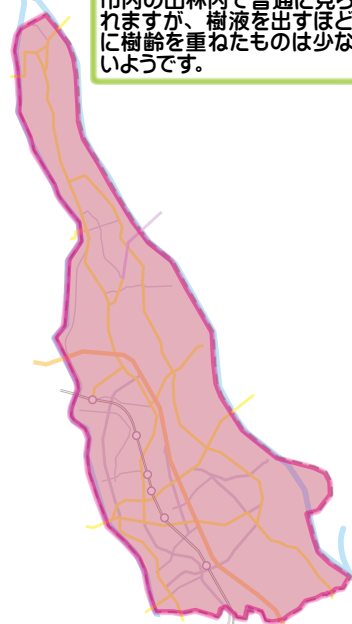
生育を脅かす要因



市内のクヌギは大半が樹齢の若い木で、樹液レストランができるほどのものは少数派です。山林そのものの開発や、大きくなる前に伐採されてしまうなどの理由が考えられます。

市内の分布状況

市内の山林内で普通に見られますが、樹液を出すほどに樹齢を重ねたものは少ないようです。



特徴

- ☆ 雑木林をかたちづくる基本樹種のひとつで、特にかつての「武蔵野の雑木林」では欠かせない存在でした。人里周辺では薪としての利用が盛んで伐採が繰り返され、結果として良好な雑木林が維持されてきました。
- ☆ 樹高 15m にもなる落葉高木で、樹齢を重ねると樹皮は不規則に深く割れ、かなりでこぼことした感じになります。さらに年数を重ねると、ところどころから樹液を出すようになります。樹皮は染料としても利用されます。
- ☆ 開花は 4 月ごろ。新芽の展開とともに多数の雄花の穂がぶら下がります。風媒花で、風が吹くと大量の花粉が舞いあがります。果実はいわゆる「どんぐり」ですが、成熟するのは開花したその年ではなく、翌年の秋です。

樹液に集まる虫たち

雑木林のどんぐりとして真っ先に思い浮かべるのが、コナラとクヌギでしょう。どちらも、たくさんの生きものをはぐくむ樹種で、たった 1 本あるだけで周辺の生物多様性は飛躍的に向上します。樹齢を重ねると、樹皮から樹液を出すようになりますが、そこにはカブトムシやクワガタ類だけではなく、多種多様な昆虫がやってきます。そのため「樹液レストラン」、「樹液酒場」とも呼ばれています。



葉のギザギザは先が針のように突き出る



雄花の穂
風で揺れて花粉を空中に散らす



寒さにあたるとうるこ状で葉が黄色～茶色に色づく



どんぐり本体。クヌギはずんぐり丸っこい

堅果

殻斗

どんぐりの帽子。クヌギはもじゃもじゃ



雌花
葉のわきにひとつずつ。小さくて自立たない



冬芽はうろこ状で毛が多い

樹皮はタテに走る深い溝が目立つ



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

